

第10次長期5か年研究推進計画策定にあたって

北海道へき地・複式教育研究連盟

委員長 柿崎 秀 顕

(安平町立遠浅小学校長)

急激な社会構造の変化に伴い、へき地・複式校を取り巻く環境が大きく変わってきました。町村合併や学校の統合、格差の拡大などの厳しい社会の状況下にあります。

昨年度、第66回全道へき地複式教育研究大会釧路大会を開催しましたが、釧路管内全体での加盟校は12校、13年前に開催した第53回全道へき地複式教育研究大会釧路大会から比べると実に28校減り、まさに加盟校が激減しているといわざるを得ない状況を目の当たりにしております。

このように、今、へき地・複式教育は大変厳しい状況にある中、こんな時だからこそ新しい時代のへき地・複式教育を創造するために全道が一つになり共同研究の輪を一層広げていくことが必要だと考えております。

さて、平成26年度十勝大会から始まった第9次長期5か年推進計画に基づいた実践研究は、宗谷、渡島、釧路と引き継がれ、平成30年度第67回全道へき地複式教育研究大会後志大会をもって一つの区切りを迎えます。

この間、研究大会のスタイルも大きく変え、1日目の全体会のあと講演会を発展的に解消し、より積極的に研究を進める視点から、実践発表のあと話し合いを行う「分散会」を行うこととなり、昨年度の釧路大会からは、話し合いもワークショップの手法を活用、より参画型の研究大会のスタイルを確立してまいりました。

これまでの研究に対し、実践校や発表者はもとより、各大会の実行委員の皆様、道へき復連研究推進委員の先生方、多くの関係機関の皆様方のご理解とご協力に心よりお礼申し上げます。

我々は、三特性を生かしたきめ細やかな指導が出来るという強みがあります。諸先輩方に教えていただいた「へき地に教育の原点がある」の言葉を糧に誇りをもってこれからも実践することが大切であると思えます。

この研究推進計画に基づいて、第68回全道へき地複式教育研究大会空知大会より5年間の実践検証を行うこととなります。

全道大会はもとより各地区の研究に際しても、この研究推進計画が有効に使われ、深化、発展し北海道のへき地・複式教育の質の向上が図られていくことを祈念し、発刊に当たっての言葉といたします。